

平成30年度 第2回宗像市男女共同参画推進懇話会 議事録

日時：平成30年10月16日（火） 10時00分～

場所：宗像市役所北館 204会議室

出席者（敬称略）

委員	出欠	委員	出欠	委員	出欠
石山 さゆり	○	井川 春奈	○	小田 勇士郎	○
小森 雅子	○	八尋 照代	○	高山 芳文	○
山田 雄三	○	永嶋 久子	○	占部 圭司	○

1 はじめのあいさつ

宗像市男女共同参画推進懇話会 会長 石山さゆり

2 議事

(1) 前回議事録について（資料1）

修正無し

(2) 第2次男女共同参画プラン実施報告及び目標設定について（資料2・3・4）

事務局委員から出た評価について、ABC の評価を点数化し、平均値を算出、懇話会の評価としてまとめた。評価決定方法がこれでよいか、ご意見いただきたい。また、4箇所、評価が同数のものがあつたので本日評価を協議いただきたい。

(会長)評価の決定方法については、いかがか。

(委員)異議無し。

(会長)事業番号 11 の“入札における建設事業者の男女共同参画の取り組みの評価点導入”について、意見をお願いしたい。

事務局B・C 同数。男女課評価はBとしている。

(委員)事業所への働きかけについて、制度を導入しないことになったにもかかわらず、B 評価をつけた理由について、男女課に確認したい。

事務局担当課と協議を行い、制度導入の有効性等について検討した結果、非導入という結論に至った。導入について検討するという目標に対しての実績としては、十分に検討を尽くしたと考えているのでB 評価とした。

(委員)導入しないのにB(ある程度達成)というのが、よくわからない。

(委員)現状の評価基準では、当てはまるものがない。

事務局導入が目標ではなく、導入の有効性を検討することが目標になっているので、事業(検討作業)自体は実施したと考えている。

(委員)制度は啓発の意味もあり導入してほしいところだが、子育て応援の評価でカバーできているというならそれでもいいかとも思う。委員評価が B・C 同数であることも併せて総合的に考えて、C 評価が妥当では。

(会長)C 評価とする。

事務局事業番号 13(DV・ハラスメント防止)について、目標どおり実施しているので A 評価と考えたが、委員評価はいかがか。

(委員)A 評価でよい。

事務局事業番号 22(子どもの安全確保)について、講演会(年 1 回)、青少年指導員との連携(会議を学期に 1 回実施)、コミュニティでのパトロールなどの取り組みを行っていることを鑑み、A 評価と考えた。

(委員)A 評価でよい。

事務局事業番号 25(学習機会の提供、啓発)について、男女共同参画推進センターの共催講座で地域に啓発活動を行っていることを鑑み、A 評価とした。なお、今年度からは男女課でも地域への説明や意見聴取、イベント時の啓発を行い、さらに力を入れて進めていく。

(委員)A 評価でよい。

事務局資料4について、委員からの質問について回答をまとめている。修正点については、評価公表時に反映させる。

(委員)事業に関わりがないので文書での評価は困難だが、自分の分かる範囲でつけた。

(委員)自分としては、もっと良くなってほしい・がんばってほしいというところに B や C の評価をつけている。全部 A にすると、改善点が見えないと思う。

(3) 平成 29 年度実施状況報告に対する意見書(案)について(資料 5)

事務局資料 3 の委員意見を元に、事務局案として意見書をまとめたもの。

(会長)1 枚目の総括は会長が作成。2 枚目以降に委員意見が反映されている。検討いただきたい。総括についても委員評価を受けて少し書き直したいところが出てきた。基本施策Ⅳの評価が低いので、今後この分野に力を入れるのがいいのでは、と思っている。

(会長)事務局としてまとめにくかったところはあるか。

事務局全体の文章としての一体性を考慮してまとめているので、取り入れていない意見もある。また、市としての事業化が可能な範囲の意見を中心にまとめている。ぜひこういう意見も盛り込んでほしいということがあれば、この場を出していただければ。

(委員)啓発や相談などが男女共同参画事業の中心になると思う。特に重要なのは、地域レベルでの女性参画やリーダー育成をどのようにしていくかという点。その仕組みづくり・きっかけづくりができればいいと思うが。またこの意見書を次年度にどうつなげていくかが少し不足していると感じた。

(会長)基本施策Ⅳが、達成度が低い。この理由は。

事務局これまで取り組みが不十分だった分野、たとえば地域啓発や防災等が、Ⅳにまとまっているため、評価が低くなったと考えている。この分野については、今年度以降力を入れていきたいと考えている。次期プランでも、この分野については充実させていきたい。

(委員)地域で男女共同参画に取り組んでいる。近々部会にしようと考えていて、他地区の状況を聞いたところ、男女共同参画の事業はコミュニティの中に入っているものの、実際にはなかなか事業が実施されていないところが多かった。自分たちも色々取り組んでいるが、なかなか広がっていかない。地域広報紙に活動を紹介する記事を載せるなど、地道に活動しているので少しずつは広がってきていると思う。ある時、男女共同参画の交流会を企画したところ、「男女共同参画とはどういうこと? 役員を増やすということ? 」と聞かれた。そうではなく、まずは役員経験者の意見交流をするということから始めると伝えた。その交流会では、役員をやって大変だったことを聞き、「家庭の中で理解・協力を得ること」が大変だったと言う声が多かった。

(会長)取り組みを始めたきっかけは?

(委員)町内会長を経験し、女性の意見が言える場所がほしいと感じた。一緒に取り組んでくれる方がおり、コミュニティの中に男女共同参画の組織を立ちあげることになった。男性は「女性の意見も必要」と言うが、実際に女性が役員になったり、意見が取り入れてもらえたりするまでにはまだまだ難しいことが多い。

(会長)そういった具体的な話も、評価やプランに入れられたらよいと思う。

(委員)自分は、企業では管理職・地域では自治会役員等をしている。現場と理想の乖離は実感している。ただ、地域での活動や事業所の取り組みに関して、市がどのような方針で取り組んでいるのか示すというのはいいことだと思う。実際自分が活動をしていて、市の方針を聞いてみたいと思うときがある。行政との対話の機会があれば、現場で活動している人たちにも励みになる。今回懇話会委員を受けたことで、全体の動きが見えて勉強になった。職場場面では、意識は着実に変わってきているが、忙しい女性たちに地域のことまでやってほしいとはなかなか言えない。働く人が地域にどうかかわって行くかという課題については、市の強いリーダーシップが必要。

(会長)地域や事業所といった現場に、市が出て行って現場の意見を拾うことは大切。

(委員)盛り上げていくのは、やはり地域からだと思う。漁協女性部で活動しているが、コミュニティのなかで女性部の食堂の取り組みを紹介してもらい、男性にも女性の活動を認識してもらうことが出来た。そのことが、女性の意欲にもつながった。まだまだ男性に男女共同参画の意識は浸透していないが、女性部の活動から少しずつ変わって行けばいいと思う。これからは若い人につなげる努力が必要だと感じているし、高齢者の知識経験も必要。地域から変わって行けばいいと思う。

(4) 市民意識調査について (資料6)

事務局(資料についての説明)速報ということで、今回は現行プランに掲載されている項目を中心にまとめている。回答率は前回並みだが、回答者の年代が上がり、男性の回答が増えている。男性で見ると6割が60代以上となり、回答傾向にも影響していると思われる。最終的な報告は年度内に提示できる予定。

(会長)学生が、熊本地震でどんなことが必要だったのかという聞き取り調査をしている。女性と子どもに対する支援が不十分だったということが分かった。特に乳幼児連れの女性が苦労が多かったようだ。医療関係者だけでなく、災害時にはそういった視点が必要なことを地域の方にも知ってほしい。被災地の声も参考にし、次期プランにも活かしていただきたい。

(委員)先日、防災に関する講座を開催した。講座前は、なぜ女性が防災に関わる必要があるのか理解してもらうのが難しかったが、講座を通し、女性の力が必要ということを理解してもらえた。市からは、女性防災士を増やすような声かけもあっているようだ。実際の災害現場では、防災士に頼るだけでなく、できる人ができることをするというのも大切。

事務局市でも12月に防災講演会を開催予定。防災に女性などの多様な視点を入れることが大切だと伝える内容。

(委員)アンケートの声に、地域における男女共同参画を求める意見が少ないようで、気になる。

事務局自治会などに関わりが薄い方には、イメージが付きにくいのかもかもしれない。まずは、地域における男女共同参画の必要性を認識してもらうところから啓発に取り組んでいきたい。

(会長)調査報告をカラーでいただきたい。

事務局後日送付する。

(5) 第3次男女共同参画プランに向けて (資料7)

事務局本日は次期プランについて方向性の確認をお願いしたい。来年度に入ってから、具体的な素案の検討を行っていく。

(資料に沿って次期プランの概要説明)国・県の政策方針の変化や時代の変化に対応するため、

これまでの10年計画を改め、次期は5年計画とする。女性活躍に関する計画を内包する形で策定する。また、施策体系の整理も行う。これまでは、基本目標が幅広く、同じ事業が何項目かに別れて記載されていた。別紙1のとおり、具体的な対象・事業目的ごとに整理しなおしたい。

事務局 評価について、現在の評価方法では評価しづらいとの意見が多いので、見直しを検討している。別紙2(他市町村事例)を参考に検討しているところだが、男女共同参画推進の全体像や進捗状況が見える形で懇話会評価をいただく形式に改めたい。ただし、懇話会評価とは別に、定量的評価(従来の事業ごとのABC評価)は継続して実施する。

(会長) 基本施策の順番は重要度順か。

事務局 施策の順番は、優先度には関係ない。

事務局 評価について、個別事業の目標達成が必ずしも男女共同参画の推進につながっていないという指摘もあった(28・29年度懇話会等)。この課題の解決を意図して見直している。

(会長) 提案された評価形式は、見やすく評価もしやすいと思う。事業ごとの目的・目標をしっかりと立てていただけるとより使いやすいものになると思う。

(委員) 防災の対象は、子どもも入れては。

事務局 この素案は、現行プランの事業を組み変えたもので、新しい要素はまだ入っていない。現行プランで十分ではなかった「防災」「地域」「女性活躍」等の内容は、次年度の懇話会で検討し盛り込んでいきたい。

(委員) プランがわかりやすく整っていることも大切だが、市民に受けとめてもらっているか、丁寧な把握が必要。今年度実施した市民意識調査の結果を、具体的に反映させてほしい。全体的な状況把握とともに、世代ごとの課題も分析を。子育て世代や働く世代、退職世代の意識には違いが出てきているはずなので、細かく分析しプランにも活かしてほしい。

事務局 最終報告には、世代や属性ごとの分析も入る。

(委員) 地域レベルで男女共同参画を進めることが大切。まちづくり・地域づくりの根本となる。意思決定に女性がかかわっているか、参加者の男女比率がどうであるかということによって、地域の事業一つ一つが大きく変わってくる。地域活性化やまちづくりの根本に男女共同参画がかかわってくるという視点が入ることが必要。男女共同参画推進課だけでなく、他部署との連携の仕組みづくりが大切。領域を超えて働きかけを行うことに行政の強みを発揮してほしい。どの地域でも、男女共同参画に取り組んでくれているリーダーがいて進めているが、そのようなリーダー・人材が次々生まれるにはどうしたらいいのか、課題である。

3 事務連絡

- ・懇話会議事録について…後日送付、議事録署名人:山田委員
- ・次年度予定について…次年度の懇話会は5回開催予定(2ヶ月に1回程度)。年度初めには、予定を提示したい。

次回予定…本年度は開催予定無し

議事録署名人 宗像市男女共同参画推進懇話会 委員

山田 雄三

